



内閣府（防 災 担 当）

# 大規模噴火時の広域降灰対策検討 ワーキンググループ(第1回) 議事要旨

## 1. 日 時

平成30年9月11日(火)16:00~18:00

## 2. 出席者

藤井主査、石原委員、伊藤委員、大野委員、郡山委員、重川委員、関谷委員、多々納委員、永田委員、長谷川委員、秦委員、萬年委員、山崎委員  
中村内閣府審議官 他

## 3. 議 題

- (1) これまでの検討の経緯と今後の進め方について
- (2) 富士山の大規模噴火時の降灰分布の推計手法について
- (3) 降灰が与える影響の被害想定項目について

## 4. 議事要旨

- 各委員から、以下をはじめとする幅広いご意見をいただいた。
  - ・ シミュレーションによる宝永噴火時の降灰分布の再現には限界がある。まず、宝永噴火時の降灰分布の実績を重視して想定される被害を整理すべき。
  - ・ どれだけの除灰期間を要するのか、また、それを地域社会としてどの程度許容できるのかを検討することも重要。
  - ・ 降灰が与える被害は相互に関係しているため、分野ごとの検討だけでなく、総合的に被害を考えていくことが必要。
  - ・ 被害額を出すことよりも、降灰が与える被害の様相を示すことが重要。
  - ・ 降灰が与える被害の想定については、社会や生命へ与える影響が大きい上水道、電力等の被害をできるかぎり想定することが重要。
  - ・ 検討のアウトプットとして火山灰の性質が社会に認知されるよう、火山灰の性質についても情報共有を図ることが必要。
  - ・ 降灰の可能性マップは、様々なケースの降灰分布の重ね合わせにより作成されているが、図で示された火山灰の到達範囲が一度に被害を受けると受け止められることもあるので、降灰分布の示し方について考えていくことも必要。

以上